

2017/4/10

## (日々雑感 73) 小修正 2



「これから」感。

まだ、これから先があるんだ！という希望感、安心感、未来がるんだ感。

「これからだよな？」「うん、そう、これから！」

僕が63歳。鄧「小平」と長俊麗夫婦がおおよそ36歳。

それぞれに、さんざんな目にあって、失敗も多数てんこ盛りでしてきましたし、二人もしてきたようですが、それでも僕らが、まがりなりにも「元気」をキープできているのは、僕らに共通している、この「これから」感のお陰じゃないかと思っています。

そう言えば、この前、僕の1600円也の紹興酒のボトルに、キープ者名として自分のなまえではなく「老人（ラオリエン）」と書かれていたのを見て

「おいおい、いくらなんでも老人はねえだろ。日本語で老人というと、もうよぼよぼのじいさんのイメージなんだぜ。せめて、じいさんとかおっさんとか書けよな。俊麗の国の言葉で書けば「爺」と書いて居るようなもんだぞ！」

「じいさんは何歳？」

「63だ」

「わたしの父さん、74歳。うん、あんた、若い」

「そういう風に若いっていわれても嬉しくねえぞ。ま。いいか。鄧さんが息子で、おまえを娘だと思えばいいか」

「うん、そ、そ。あんた私たちの父さん」

「そう言えば日本語で「とう」「鄧」さんといえば、父さん、お父さんの意味なんだ。わかるか？鄧さんは「とうさんとうさん」なんだよ」

といたら二人が、

「へ？そ？」

と言って大笑いになりました。

話は少し戻りますが、僕が言ったその時は、座ったカウンターが一番隅の席で、若い小太りの学生さんらしい男の子が五目チャーハンの大盛りをもそもそ食べていました。俊麗が中

国語で話しかけていたので、中国人だと分かりました。

「学生さん？留学生？」

と、話しかけると二、三個先の駅に近い「国学系大学」の学生だと答えましたが、何を勉強しているのかを訊いてもあまりはっきりした返事がかえってきませんでした。しかも、体制の全く反対な国の子が、日本の国学を学びに来ていることもよく分かりませんでした。

それで、その学生さんが帰った後で、俊麗に

「なんか、元気のない、はっきりしない子だな」

というと

「うん。元気ない。でもいっぱい食べる。いつも大盛りの大盛り」

「そう言えば、昼間の中国人のアルバイトの女の子も、元気なかったな。中国人、最近、疲れてないか？元気くないか？」

「多分、みんなたくさんバイトするから疲れてる。でも、あの学生さん、働いてもないのに、疲れてるみたい。でも、いっぱい食べる」

「日本の私立大学に「訳の分からん」学問を勉強しに来させられるくらいだから、親は金持ちだよな。日本と中国のお給料ずいぶん違うのに、子供を留学させられるんやから」

「うん、多分金持ち。だからいつも大盛りの大盛り頼む」

「日本の学生さんもあんまり元気ない。最近の若い人、元気ねえな。日本も中国も一緒か？元気か元気じゃないか？若いかな若くないか？って、多分、歳じゃねえな」

「うん。老人（ラオリエン）ない。おっさん。日本の父さんは」

「う～ん。やっぱりなんだか、褒められてるんだかどうか、よう分からんな。びみょーな線やな」

「モーマントイ（無問題）、モーマントイ（無問題）！」

わかっていることは、とにかく三人とも仕事だけは一生懸命たのしくやっていることくらいでした。

そのあと、百均で自分用に買った甘いのとしょっぱいののスナック菓子のどちらか一個をやるからどっちが良いか訊くと、二人とも甘いのが良いということで、甘い方のスナック菓子を置いて帰りました。

百均なのに本当に嬉しそうな顔をしていました。